



共生の時代

'08
7月

●発行:グリーンコープ共同体理事会 ●編集:共生の時代・編集部 ●〒812-8561 福岡市博多区博多駅中央街8番36号博多ビル7階 TEL092(481)7923 FAX092(481)7876



▲沖には人工島に建設中の高層マンションが見える

▲人工島ができる前の風景が現われた和臼干潟のようす



和臼干潟は大切な宝

未来の子どもたちに遺したい

シャボン玉フォーラム
in ふくおか
第7分科会

和臼干潟は大切な宝

未来の子どもたちに遺したい

「2008年度シャボン玉フォーラムinふくおか」が水環境をテーマに4月12日に開催され、全国から参集した仲間と共に水の大切さについて考えました。今号では分科会の一つである第7分科会、「豊かな自然を未来の子どもたちに伝えたい」のようすを報告します。(6・7面に関連記事)



分科会の会場・和臼干潟で話を聴く参加者たち

今、生命の源とも言うべき「水環境」は大きな危機に直面しています。川や海の汚染は、工場廃水が最大の原因と思われがちですが、実は原因の大部分が私たちの出す生活排水なのです。現代の便利な生活の中では、蛇口からきれいな水が出てくるのを当然のことと思いきや、台所から流した水の行く先を考えずに日々暮らしています。しかし、私たちの生活は自然の一部、自然の恩恵であることを忘れてはなりません。分科会は「和臼干潟を守る会」のメンバーを講師に迎え、干潟の豊かな自然の生態や、その大切さなどを学びました。

和臼干潟の重要な役割 わが国では埋立地が多く、自然の状態で残っている干潟はわずかになっていきます。和臼干潟はその貴重な干潟の一つで、日本海側ではわが国最大級の干潟です。正面に人工島やその中に立ち並ぶビル群が見え、左右には福岡市の住宅街があります。まさに都会の中の干潟です。きりえ画家でもある会の代表の山本廣子さんは、ここで生まれ育ち干潟の変貌をずっと見てきました。昔はたくさんの方が海水浴を楽しんだこと、子どもたちの格好の遊び場

だったこと、今は環境が悪化し生き物の数が激減していることなどを話してくれました。そんな失われつつある自然の中でも望遠鏡で覗いた水鳥たちは忙しそうに餌をついばみ、羽を広げ飛び立ち、時には顔を羽に埋めて休息したりと生き生きとした姿を見せてくれました。講師の先導で干潟に入っていくと足元にはウミナナなどの貝類、スコップで穴を掘るとカニやゴカイなどの底生動物がたくさん生息していました。昔はもつとたくさんいたというのです。水鳥の餌となる底生動物が豊富なため、多くの渡り鳥がここを訪れます。和臼干潟は東アジアの渡りのルート上にあり、世界的に

も貴重な干潟なのです。しかし、スコップで穴を掘っていくと黄色い砂の下は黒く変色した砂が溜まっています。工場の廃棄物や生活排水で海が汚染されたまま浄化されていないようすを目の当たりにしました。

また、植物の観察も行いました。干潟周辺には、海水と淡水の混じりあう環境を好む塩生植物が自生しています。和臼海岸が日本の分布の南限となっているハマニクが見られ、その他にもハマダイコン、ツルナ、ヨシなどが観察できました。

観察会終了後に、容器にアサリ貝を入れた海水と入れない海水を比べて見る実験を行いました。明らかにアサリ貝を入れた海水は澄んで透明になっていて、いかに干潟の底生動物が海水を浄化しているかがよく分かりました。この実験に、たくさんの参加者が「びっくりした」「干潟の役割がよく分かった」という感想を述べていました。

自然との共存を考える

現在の和臼干潟は、福岡市の都市化による生活排水の流入増と博多湾の開発による浅海域の消滅で浄化能

が低下しています。自然環境の悪化が結局私たちに跳ね返ってくることは皆分かっています。私たちにできることを今から踏み出さなくてはなりません。まずは、ここで体験したことを周囲に伝えていこうと、参加者が相互に確認しあいました。

「和臼干潟を守る会」はクリーン作戦や水質調査を行い、博多湾・和臼干潟がラムサール条約の登録湿地となるよう環境省に要望書を提出し、干潟の保全をめざして努力を重ねています。自然環境の悪化が結局私たちに跳ね返ってくることは皆分かっています。私たちにできることを今から踏み出さなくてはなりません。まずは、ここで体験したことを周囲に伝えていこうと、参加者が相互に確認しあいました。



アサリの浄化実験
アサリ貝を入れた海水は澄んでいる

Contents

グリーンコープを創った人たち(4) 旧ふくおか連合代表理事 落合 とく子	
グリーンコープで味わった 「みんなちがって、みんないい」	2
新規加入者フォローの取り組み	
グリーンコープを伝えよう	3
グリーンコープ共同体第二期通常総会 グリーンコープ連合第十六期通常総会	
未来に向かって力強い一歩を 踏み出しました	4・5
グリーンコープのせっけんの取り組みと歩み 2008シャボン玉フォーラムinふくおか分科会	
元気に楽しくせっけんライフ	6・7
生活再生事業	
予防から自立支援まで 多重債務問題をトータルに考える	8
APLA/あぶら設立記念シンポジウム 人びとが創るもうひとつのアジア	
鹿児島県水産高校	9
メーカー・生産者からのメッセージ(4) 綾豚会	
豚のいのちと向きあい豚と人が織り成す養豚へ	10
家計とくらしのワーカーズ円縁が誕生しました	
グリーンコープ商品の「遺伝子組み換え表示」が 一部変わります グリーンコープがめざす生活協同組合④	11
組合員・ワーカーズ・職員リレーメッセージ	
未来へつなぐ20年 私の思い	12

20年の歴史を創った原点に戻る



“場の空気を読む” などという人間の機微を共有できる現代とは、社会がある種の成熟を成しとげつつある証のように思われる。

落合が第一線で活動した1980～90年半ばのグリーンコープは、組織としての体制を整える途上にあり、同質の人間の生の感情が激しく交錯し、時には激突するという日々の連続だった。その渦中にいながら、落合は「そのままの自分であること」を貫き、グリーンコープという「異質」の道を超然と歩み続けた。



旧ふくおか連合代表理事
落合 とく子

グリーンコープで味わった 「みんなちがって、みんないい」

落

合は1931年福岡の生まれ。戦中派である。学童期は父親の仕事の都合で兵庫県に居住していた。やがて戦況は厳しさを増し、終戦1年前の中学2年の時には学徒動員にかりだされ、工場で飛行機の部品を作っていた。程なくして空襲に見舞われ、戻った福岡でも再び空襲で焼け出され朝倉に疎開した。中学3年で終戦。しかし社会の混乱は続き、上級学校へ進学するも学業どころではない青春だった。

29歳で結婚。夫は勤務医で二児に恵まれる。三十代は子育てに追われる平穏な暮らしを満喫した。

老舗ふくおか生協の 初代女性理事長になる

現在も暮らす福岡県太宰府市に住宅を購入したのは落合41歳の時だった。その地域をエリアとするふくおか生協（現グリーンコープ生協ふくおか筑紫支部・福岡西支部）へ加入。1～2年して地区運営委員会にもかかわるようになる。落合にとって生協の役を引き受けるということは、地域の自治会やPTAの役回りと同じ感覚。誰かが引き受けたことは、当然自分も引き受けなければと思うのだった。

だが、生協は落合の性に

合った。自分の感性で思う存分活動できた。「だつてね、ふくおか生協に青空市場を根付かせたのは私たちなのよ。職員が運転する軽トラの横に座って朝倉の土の香グループまで野菜を引き取りに行つて、自分たちで値段も付けてね。最初は野菜を積んだりヤカーだつて引いていたのよ」。思い出すに楽しげだ。



落合が参加した春の組合員のつどい（1997年2月4日）

やがて理事になり、そのうち落合の自宅から歩いて数分の距離に店舗を建てようという話が浮上し、落合は店舗建設委員長に推挙される。「仕方ないわね。すぐそこに建つんだもの」と引き受けた。

折しも、男性理事長と職員の間で労働争議が起き、理事長は責任をとって辞任。理事長の椅子が突然空席となる。1986年のことだ。当時多くの生協がグリーンコープ結成へ向けて動き出していたが、その中で男性が理事長を務めていたのはふくおか生協だけだった。次の理事長は私たちのなかから出そうという機運が女性理事から生まれ、落合は同年理事長になる。老舗ふくおか生協初代女性理事長の誕生であった。

しかし、画期的なこの就任もめでたい話だけではなかった。当時ふくおか生協は一億円の赤字を抱えていた。理事長は権力を有するが、同時に最高責任者でもある。落合は印鑑証明を取り、種々の文書に判を押しながら責任の重さに震えた。常任理事制度を作り、仲間の女性理事と合宿し、経営再建へ向けたことん協議を重ねていった。

グリーンコープ 結成へ向けて

所属生協の強化と共に、落合はさらに重い役割を担うことになる。グリーンコープという一つの連帯組織を作るには、その前段として最大の難所、福岡県内の生協を一つにまとめる必要があった。そのための「ふく

おか準備会」の代表理事を引き受けざるを得なくなつた。生い立ちが違う各生協の出会いには、当然すんなりとはいかない。どのようなグリーンコープを作るのかと言った時、みんな自分が属している生協に似たような生協を作ろうとする。意見を述べる時も一人の母親としての意見というより、背負っている組織の意見になりがちだった。それはある意味自然なことである。しかし、そのすれ違いに次第に全員が疲弊していく。「そんな時、理詰めです」と治まらない。智に働けば角が立つ。って言うで

「私ももし生協にかかわってなかったら、何事も、自分の常識」で考えていたでしょうね。でも個々人それぞれに、常識」はある。それは尊重しなくては。金子みすゞさんの「みんなちがって、みんないい」、あれよ。みんなに支えられて私があつたのだと振り返つてつくづく思うの」。77歳になる落合の実感である。

※70年代前半に台頭してきた多くの市民生協とは生い立ちが異なり、戦後間もなく全労連（全労連軍労働組合）が設立した職域生協である板付生協が母体。1968年に糸島消費生協と合併してふくおか生協となった。2003年グリーンコープ生協福岡・北九州に合流

グリーンコープを伝えよう

語ろう！知ろう！組合員による新規加入者フォローのノウハウ



相次ぐ質問で活気づく会場



設立20周年の今年、グリーンコープはかつてない規模での仲間づくりを目標に掲げています。各単協では組合員が中心となって「新しい組合員を仲間として迎え入れよう」「グリーンコープのことをもっと知ってもらおう」と、工夫を凝らした新規加入者フォローで仲間づくりに取り組んでいます。

組合員による新規加入者フォローの取り組みを共有するための研修会が4月28日 福岡市で開催され、各単協から組合員約120人が参加しました。

会の冒頭、グリーンコープ 共同代表理事の吉田文子さんから、「お互いの活動を共有化することで今後の新規加入者フォローに生かしていきたい」と挨拶がありました。

グリーンコープは、設立20周年を迎える今年度、これまで以上の組合員の拡大に取り組んでいます。一方、毎年多くの組合員を迎えているものの、2年目にはグリーンコープから離れていってしまう組合員もいます。この現状をどう打破していくのかを課題に、今回の集いが開催されました。この間も組合員同士のコミュニケーションを図り、直接顔を合わせて話をすることが、一番グリーンコープのよさを分かってくれらると、さまざまな働きかけをしてきました。

新規加入者に向けた取り組みをしてきた単協の活動を紹介しあい、それぞれの単協で生かしてもらおうことを目的に、ふくおかとおおいたの取り組みを中心に紹介がありました。ふくおかからはウェルカムパーティのようすが映像で、電話かけの内容がパフォーマンステキで分かりやすく紹介されました。おおいたからはサンプルバッグを新規組合員全員に配る取り組みが紹介されました。両単協の工夫を凝らした楽しい活動報告に、参加者はくぎ付けになっていました。

質疑応答では、各単協から担当者の人数や準備にかかった時間、案内チラシの工夫点など、具体的な活動内容についての熱心な質問や、「とても参考になった」、「早速今日の話を取り入れて私たちのフォローに活用していきたい」などの感想が相次ぎ、参加者たちの意気込みが伝わってきました。

最後に、他の単協からのアピールがあり、新規加入者フォローの現状を全員で共有することができました。

新しく迎えた組合員に、グリーンコープのよさをもっと伝えるために、積極的かついいねいフォローしていくことが、仲間づくりの輪を広げていくことになると確認しあうことができました。



流れ作業で行う袋詰め作業

おおいたの新規組合員の70%が個人宅配（個配）です。せっかく組合員になったにもかかわらず、個配の手数料無料期間が終了すると脱退や休止する人がいるという残念な状況が見られます。個配の新規組合員と

どのようにつながっていくかが課題です。

2007年度も新規組合員全員に「元気くんバッグ」（商品サンプルやアンケート、グリーンコープ紹介パンフレットが入っている）を届ける取り組みをしていましたが、中には元気くんバッグが届く前に個配の手数料無料期間が終わってしまうケースが見られました。そこで、2008年度は加入6週目に届けるよう、職員と連携して取り組むことにしました。

元気くんバッグの袋詰め作業は年3回、会議など全員がそろう機会に行い、無理な

グリーンコープ生協おおいた 元気くんバッグでつながろう



2008年度は、昨年の取り組みを踏まえて、さらに組合員とのコミュニケーションをとることに重点をおいて展開することにした。

チラシの配布はもちろん、ウェルカムパーティなど、楽しくて魅力ある取り組みを組合員へいいねい電話で呼びかけていきます。

電話でのコミュニケーションは、呼びかけの趣旨が直接伝えられるというメリットがあります。直接電話でお話しすると、これまで参加を迷っていた人が参加を決めることもありました。

突然の電話でも新規組合員が気軽に参加する気持ちになれるよう、電話の内容には特に気を遣います。これまでの経験で困ったことなどを地区委員会などで出しあって話しあい、電話対応のマニュアルを作りました。

ウェルカムパーティは、料

グリーンコープ生協ふくおか 直接出会うつながろう

2008年度は、昨年の取り組みを踏まえて、さらに組合員とのコミュニケーションをとることに重点をおいて展開することにした。

チラシの配布はもちろん、ウェルカムパーティなど、楽しくて魅力ある取り組みを組合員へいいねい電話で呼びかけていきます。

電話でのコミュニケーションは、呼びかけの趣旨が直接伝えられるというメリットがあります。直接電話でお話しすると、これまで参加を迷っていた人が参加を決めることもありました。

突然の電話でも新規組合員が気軽に参加する気持ちになれるよう、電話の内容には特に気を遣います。これまでの経験で困ったことなどを地区委員会などで出しあって話しあい、電話対応のマニュアルを作りました。

ウェルカムパーティは、料



大量の元気くんバッグの迅速な袋詰め作業の実演と、元気くんバッグを利用した新規組合員とのコミュニケーションのようすをロールプレイで紹介した

大量の元気くんバッグの迅速な袋詰め作業の実演と、元気くんバッグを利用した新規組合員とのコミュニケーションのようすをロールプレイで紹介した

職員も一緒に作業をすることになりました。

また、継続利用につながるアンケートの回収にも引き続き力を入れ、2008年度も配達時の声かけ、アンケート提出者へのプレゼントなどを行います。また、アンケートに対して先輩組合員が返事の手紙を届けることで、相互にコミュニケーションを図る工夫をします。

さらに、今年度から業務の取り組みとして、すべての個配組合員を訪問して顔の見える関係作りをすすめていきます。また、職員と共同で「せっけん学習会&ギフト試食会」を企画。職員が新規組合員と直接出会って組合員と一緒にフォローに取り組み場を設ける予定です。



糸電話を使った博多弁でのロールプレイは大いに盛り上がった

理作りや商品試食、それにびん牛乳とせっけんの話が中心です。同じ組合員同士ということで、堅苦しくならず楽しいパーティになるよう心がけています。調理は新規組合員と先輩組合員が一緒

多くの新しい組合員にとって、ウェルカムパーティや講演会、学習会など、さまざまな趣向を凝らした取り組みを企画し、より充実した新規加入者フォローによって、仲間づくりの和を広げていきます。

にやることで、和やかな雰囲気になります。びん牛乳のレンネット実験やせっけんの実験（ブラックライトでの合成洗剤と石けんの比較、煮洗い）にみな興味津々。より理解を深めてもらうことができます。グリーンコープの食べもの運動が実を結んだびん牛乳は、グリーンコープを語るのに最適なテーマです。また、せっけんは使い方の説明と実験をすることで、利用のきっかけとなっています。

これからの10年20年を見据え、グリーンコープ共同体がスタートして約半年間、着実な歩みをすすめています。グリーンコープ共同体の第二期通常総会が開催され、厳しい時代背景の中で、グリーンコープの運動と事業に関する真摯な総括と方針が提案され、すべての議案が満場一致で承認されました。グリーンコープ共同体の歴史の一步が刻まれ、新たな一年がはじまりました。

同日、グリーンコープ連合第十六期通常総会も開催され、全議案が承認されました。



第一号議案を提案する
グリーンコープ共同体
専務理事 東原 晃一郎さん

厳しい社会状況の中で、これまでのグリーンコープの方針の確かさを改めて確信することができました

品で輸入農産物を前提にしているものはかぎりなく少なくなっています。

来に向かつて継続的に自信を持つてすすめるための基盤でもある、地域組合員総会が、

ふくおかが2006年度に
開始した生活再生事業は、組
合員や市民にも認知され、行
れまして。

き場がなかった多くの人々の問題の解決に役立っています。社会的にも大きな評価を受け、ふくおかは本年より福岡県の委託を受け県民への相談事業の受け皿ともなりました。また、本年中に、くまもと、おおいた、やまぐちが開始します。

組合員が生活協同組合に主

オールグリーンコープの組合員活動とワーカーズ運動・代理人運動などの担い手が一堂に会して運動の広がりと進捗を確かめあう「第2回地域運動交流集会」も盛況に開催されました。グリーンコープ運動のもう一つの柱を担うワーカーズ運動も着実に歩みをすすめています。

「社会福祉法人煌」は本年3月「社会福祉法人グリーン

「コープ」へ名称変更し、グリーンコープとの関係が不即不離であることが誰にでも分かるようになりました。

地域から世界につながる活動も一歩ずつすすんでいます。南と北の連帯の一つとして、初めて組合員の訪問団をパレスチナへ送ることができました。

「六ヶ所再生処理工場」に
反対し放射能汚染を阻止する
全国ネットワーク、遺伝子組
み換え食品いらない！キャン
ペーン、協同組合せっけん運
動連絡会などの取り組みに積
極的に連帯し、運動をすすめ
ました。

厳しい世界・日本経済を見据えて、
グリーンコープ共同体として、
不測の事態に備えていきます

北が南を支配する構造の中でモノ・カネが動き、世界経済は動いてきました。昨年2月アメリカのサブプライム・ローン問題をきっかけに、80年前の金融恐慌に似た状況が世界を襲っています。

グリーンコープはこれまでも経験の中から不測の事

態に對し備えを怠らないようにしてきました。2001年、グリーン・システムによつて、組合員数が飛躍的に伸び、関西にも新しい仲間が誕生しました。事業

高は苦しみつつも全単協と連合の努力によって、2007年は104・7%の伸長となっています。現在、グリーンコープ設立20周年記念キャンペーンに連動して、例年を大きく越す仲間づくりが行われ、現時点で前年比105%を超える供給となっています。

10年後も20年後も「グリーンコップ」がグリーンコップである」ために、集うすべての人の力を結集していきます。

グリーンコープ共同体は自らを常に改革し、組合員主権を貫きへ一つのグリーンコープの形成をめざすことを、日常の出来事の中で丁寧に検討し、実践してきました

討し、実践してきました

グリーンユース共同体の

設立にあたっては、その基本概念を「グリーンコープ共同体は、各グリーンコープ生協とグリーンコープ連合が構成し、それらを包摂します」としています。そのための実践と認識を獲得していくため、みんなの財産（ヒト、モノ、カネ、ノウハウ、チエ）を一体的・合理的に活用していくという方向ですすめてきました。このため、それぞれの組合員・職員・ワーカーズが力をもつに合わせ、活かしあいます。

「グリーンコープ共同体
と各単協・連合の取り組み」

方針とが、二つにして一つのもの」となるよう、検討を重ねてきました。もちろん「どこから切っても同じ金太郎飴」のような姿ではありません。具体化と活性化は、各単協・各地域の人々の手でつくられます。単協が本当に強くなることが、グリーンコープ共同体を建設するということにつながっていきます。2007年度はどの単協も連合も、従来以上に、元気に、その活動と事業をすすめることができました。間違いない共同体建設の歩みを踏み出すことができたと言えます。

代議員 187人	賛成	反対	保留
第一号議案 2007年度活動報告承認の件	187	0	0
第二号議案 2007年度決算報告承認の件 (監査報告を含む)	187	0	0
第三号議案 2008年度活動方針決定の件	187	0	0
第四号議案 2008年度事業計画・予算決定の件	187	0	0
第五号議案 借入金最高限度額決定の件	187	0	0
第六号議案 役員補充選出の件	187	0	0

20年のグリーンコープの歩みをこれからも貫き、環境・地域の課題にさらに踏み出します。そして、「グリーンコープ共同体」の形成をさらに実現していきましょう。

グリーンコープの食べもの運動をこれまでの到達点に立ち、さらによい食べものの在り方をめざして、自信をもってすすめていきましよう。

飛躍的に仲間づくりの輪を広げ、組合員同士のコミュニケーションを創り出し、「いのち・自然・くらし」を守るグリーンコープ運動と事業をさらに推進させましょう。

協同していく地域と社会づくりに向けて、生活再生事業や家計とくらしの応援活動、子育て応援など、助け合いの運動と事業を社会福祉法人グリーンコープそしてワーカーズと共にすすめていきたいと思います。

全国のネットワークに連帯し、遺伝子組み換えや脱原発、地球温暖化などの社会的な問題に、生命を根幹にすえて取り組み、グリーンコープのできることから解決していきましょう。

民衆交易やその他の取り組みを通して連帯・交流
 することで、「南と北」「北と北」の共生・連帯を
 ならにすすめていきましょう。

20周年記念事業を成功させ、グリーンコープに集う全ての人々と共に私たちの今を確信し、さらなる前進を勢いよく歩み出しましょう。

共同體第二期
連合第十六期
通常總會スローガン

未来に向かって 踏み出

2008年6月11日

グリーンコープ共同体第二期通常総会

グリーンコープ連合第十六期通常総会



グリーンコープ連合は共同体の一員として役割をはたしています

グリーンコープ連合
専務理事 片岡 宏明さん

グリーンコープ連合は、共同体の一員として2007年度の活動をしました。

2008年度の商品事業等は、20周年記念事業の拡大計画に伴い、供給数や商品アイテム数の増加が見込まれます。新物流センターの新設も見込み、予算を組んでいます。共済事業については、組合員への給付と割戻しがき

んとできるよう、予算を組みました。

今年50年ぶりに改正された生協法により、一定規模以上の生協と連合会は、元受共済事業と他の事業との兼業が禁止されました。現在グリーンコープが加入している日本生協連は、改正生協法の趣旨を踏まえ、共済部門を引き継ぐ組織として、日生協コープ共済生活協同組合連合会(仮称)を設立することになりました。グリーンコープも日生協コープ共済生活協同組合連合会へ加入することを検討してきました。本総会に承認を提案します。

連合総会議案採決の結果

代議員 187人	賛成	反対	保留
第一号議案 2007年度活動報告承認の件	187	0	0
第二号議案 2007年度決算報告承認の件(監査報告を含む)	187	0	0
第三号議案 2008年度事業計画・予算決定の件	187	0	0
第四号議案 借入金最高限度額決定の件	187	0	0
第五号議案 日生協コープ共済生活協同組合連合会(仮称)への加入承認の件	187	0	0
第六号議案 役員補充選出の件	187	0	0

一、世界的に食糧需給は厳しい時代です。グリーンコープはこれまで同様、国産農畜産物や、産直を大切にする方針を自信を持ってすすめます。また、グリーンコープが取り扱っている商品の「産直」「国産」「自給率」などの観点から、さらにより食べもののあり方を追求します。国産農産物を守り抜いていくために、生産者にとっても責任ある仕組みづくりに着手し、商品や原料の確保を強化します。

一、組合員総会を開催し、生活協同組合の原点に戻り組合員の三原則(出資・利用・運営)を主体的に確認し、継続的に組合員主権を貫きます。全単協とも2010年までに開催をめざします。

一、社会経済状況の収縮が予測されるからこそ、20周年を記念する意味合いも込めて、日常を飛躍的に超える145

グリーンコープの20年の歩みをこれからも貫きます
そして、環境・地域の課題にさらに踏み出します

て、グリーンコープに集うすべての人々と共に私たちの今を確信し、さらなる前進を勢いよく歩み出す契機とするために、20周年事業を成功させます。

補充選出された役員

理事 角 幸恵	グリーンコープ生協(島根)
理事 小川 ちはる	グリーンコープ生協ふくおか
理事 武岡 理恵	グリーンコープ生協ふくおか
理事 高橋 純子	グリーンコープ生協(長崎)
理事 園山 寛	グリーンコープ生協くまもと
理事 奥田 富美子	グリーンコープ生協おおい
理事 川原 ひろみ	グリーンコープかごしま生協

退任された方

理事 中川 孝子	グリーンコープ生協(島根)
理事 宮中 智美	グリーンコープ生協ふくおか
理事 一丸 直子	グリーンコープ生協ふくおか
理事 福田 正三	グリーンコープ生協ふくおか
理事 後藤 典子	グリーンコープ生協(長崎)
理事 中島 明美	グリーンコープ生協くまもと
理事 萱嶋 教代	グリーンコープ生協おおい
理事 鳥原 良子	グリーンコープかごしま生協
監事 横路 瑠美	グリーンコープ生協(島根)

産直・交流委員長
本河 しのぶさん

小麦生産地の北海道美瑛町はグリーンコープという産直関係ではありません。2007年度は美瑛町の生産者と組合員が言葉と想いを伝えあい、産直と同様の深い交流をしました。今後、メーカーへの視察も行い、組合員が商品を身近に感じ、利用していただけるような取り組みをオールグリーンコープとしてすすめます。

グリーンコープ共同体設立後、「共同体商品検討委員会」として単協が主体となつて生み出す商品がオールグリーンコープの商品となることを目標に、委員会運営をしてきました。今後、さらに単協ごとの違いを尊重しながら、単協の夢や思いをカタチにできる商品づくりをすすめていきます。

商品検討委員長
横 慶子さん

グリーンコープ共同体委員会報告

組織委員長
園田 由紀子さん

「せつけん」「環境」「平和」「アジアとの連帯」の取り組みが地域に根ざした活動となるよう、相談協議しながらすすめてきました。これらの取り組みをおして組合員・単協間ごとの理解が深まるような情報発信をめざします。そして「いのち・自然・くらし」を守るグリーンコープ運動を展開する単協の活動を支援していきます。

2007年度福祉委員会は、単協の福祉活動の取り組み共有化や学習会に力を入れました。理事会の提案を受けた「国立別府重度障害者センター」の視察は、福祉の内容、範囲の広さを学ぶよい機会になりました。共に支えあい地域に根ざす「共助」を柱に、生活者の視点に立った活動をめざします。

福祉委員長
西本 幸子さん

ライフ

地球は水の惑星、表面積の71%は水。地球全体の水のうち97%が海水、人間が利用できる水は0.03%とされています。今、その水の汚染がすすんでいます。生命の源、水環境を守ることは、私たちの暮らし、子どもたちの未来を守ることです。

グリーンコープは自然や身体にやさしいせっけんの利用を前身生協の時代から20年以上、すすめてきました。その足取りを検証し、これからもせっけん派生協であることを基軸に取り組みを展開していきます。

併せて、福岡市でのシャボン玉フォーラム（4月11～12日開催）の分科会のような紹介を紹介します。

2008シャボン玉フォーラムinふくおか分科会

第1分科会

初心者向けのせっけん講座 せっけんってエコかい



グリーンコープ生協ふくおかの地区委員らが合成洗剤とせっけんの違いの実験をしました。

田嶋晴彦さん(薬学博士)が「初心者向けのせっけん講座」を講演。せっけんとは合成洗剤の使い方(硬度によってのせっけんの使用量の違い、風呂の残り湯の利用、泡の状態のチェック、洗濯機槽の洗い方、せっけんカス対策など)の説明がありました。また、グリーンコープのせっけん類の特長や使い分けが分かりやすく説明され、コツを覚えればせっけんは経済的であるばかりか、エコな暮らしの入り口となると話しました。

グリーンコープ生協ふくおかの地区委員からは、「洗濯編」「キッチン編」というテーマでせっけんに切り替えたきっかけやせっけんを使った感想などの報告がありました。「洗濯編」では「学習会で合成洗剤の怖さを知ったことが、せっけんに切り替えるきっかけ。切り替えた時面倒くさいと思ったけれど冬の手荒れもなくなり水道代も安くなった。」「ひと手間かけるとポイントさえ押さえておけば大丈夫。今では楽しみながら使っている」という話がありました。

せっけんメーカーである地の塩社の田口恵さんからは「せっけんでの食器洗い」のアドバイスが紹介されました。質問コーナーでは時間が足りないくらいたくさん質問が出されました。

水質汚濁の最大原因は生活排水。水を汚さないように一人ひとりができることとして、せっけんを使っていこうとまとめられました。

5000年の歴史を持つせっけん、1000年にも満たない合成洗剤

自然の生態系を壊さない、環境にやさしいせっけんは、紀元前3000年メソポタミア時代から使われてきました。神への供え物として焼かれた羊からしたり落ちた脂が灰に落ち、土にしみこんだものがせっけんになったとされています。せっけんの安全性はこの長い歴史に裏打ちされています。

一方、合成洗剤は第一次大戦中、食用油脂に窮乏したドイツで食用油脂に頼らない洗剤を作ったことから始まりました。第二次大戦中に石油や石炭から実用的な合成洗剤が誕生し、軍用に盛んに使われました。戦後、石油産業の発展と共にアメリカで大量に生産されはじめたのです。安全性に問題があるにもか

誕生につながりました。協石連の運動は、合成洗剤の追放運動から、せっけんを広め自分たちの生活全般の見直しを提案する方向に発展していきました。

水環境に有害と認定された合成洗剤

1995年、「合成洗剤もいろいろなものがある、せっけんの方が有機負荷量が多い」という合成洗剤優位説が出されました。それを受けて協石連として、神戸大学の讃岐田研究室に

「合成洗剤の変異性と染色体異常の実験」を依頼しました。その時点では明らかに変異性は見られませんでした。このような実験には時間と莫大な資金を要することから実験の継続を断念しました。こうした流れを経て、1996年に「化学法」(特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理改善の促進に関する法

300人
洗剤アンケートを契機に

さまざまな取り組みを精

きていません。

グリーンコープはさまざま

な取り組みを行い、せっ

けんの利用を広げる努力を

しています。せっけんを使

いこなすための学習会の開

催、せっけんのよさを理解

してもらったために赤ちゃん

とお母さんを対象にした

「赤ちゃん誕生プレゼント」や「学校せっけんプレ

ゼント」など、各生協が趣

向を凝らした取り組みを行

いました。

1994年には合成洗剤

からの切り換えタイプとし

て、「香料入りおせんたく

のしゃぼん」が開発されま

した。また、多くの人が利

用しはじめていた全自動洗

濯機でもせっけんが上手に

使えるような、せっけんの

利用方法の情宣に力を入れ

てきました。

生命の源、水環境を守る

せっけん

せっけん運動をすすめる

全国の生協や団体の地道な

努力により、学校給食の現

場などでのせっけんの利用

は高まってきました。しか

し、現在洗剤メーカーの業

界団体である日本石鹸洗剤

工業会は自治体への圧力を

強めており、せっけんの使

用の施策を後退させる自治

体も出てきています。そう

した動きに危機感を持った

ぼん、シャンプー類など次

々と開発し、用途別せっ

けん類を充実させていきま

した。現在では、グリーンコー

プのせっけん類は充実し、

組合員がそれぞれの生活に

合ったせっけんを選ぶこと

ができます。

せっけんを広めるための

取り組みとしてシャボン玉

月間応援セミナーもこの年

(1995年)からはじま

りました。

未来ある子どもたちとともに

水環境を考えよう

第2分科会

未来ある子どもたちとともに 水環境を考えよう



魚部スーツと彼らが呼ぶ調査活動スタイルで登場した北九州高校の「魚部」。魚の名前当てクイズなどで会場は大いに盛り上がりしました

自宅前の川で蜚を観察して8年になる中尾明子さん(環境カウンセラー)から、蜚の生態系とおした水環境の大切さが話されました。「蜚の幼虫が川を上がって土の中で成虫になることを知り、改めて、私たちも蜚と同じ生き物だと実感した。水だけでなく環境全体の大切さにも気付いた」。また、川に生息している生きものの観察など川遊びの面白さをおして、「人間も一生物として連鎖の中で生きていることを自覚し、水の大切さを「知っている」から「行動」する」と、親子を含めた満席の会場に訴えました。

「北九州高校・魚部」と福岡市のNPO「環境未来塾」からは、川での調査活動や遊びなどユニークで具体的な啓発活動が紹介されました。「非日常」になりつつある自然体験を意識的に取り入れ、私たち生物にとって大切な「水」を考える分科会となりました。

第3分科会

「水環境の過去・現在・未来」 住んでいる地域の川を見つめなおしてみませんか

私たちの暮らしに深く結びついている「川」。その川を取り巻く水環境が過去から現在にかけて大きく変わってきています。福岡県遠賀郡河川環境保全モニターの上信好さんによる「私の川履歴」川との付き合いの中で変わって行く私の生活」をテーマにした講演では、測上さんの川履歴を辿り、出会った事柄や人、生き物をととして水環境の状況を学びました。現在、人工的に作り変えられた川も多く、生態系などにも影響を及ぼしています。「川」の大切さと未来を見据えた取り組みが課題であることを再認識しました。

自然や川を守るためのさまざまな活動について、4団体から映像を交えた報告がありました。生命の水を守るために生活者として身近にできることから始めようと、参加者一同思いを新たにしました。

グリーンコープのせっけんの 取り組みと歩み

元気に楽しく せっけん

第6 分科会

2008年度 シャボン玉月間の行政訪問活動に向けて

グリーンコープ生協さがの田中理事
長が、首長メッセージ取得活動のよ
うすを報告しました



「市民と行政の連携で水環境を守り・育てる」目的で、2007年度、協石連の多くの会員団体が行政訪問活動に取り組みました。そのようすをグリーンコープ生協ふくおかやグリーンコープ生協さがのなど、6つの団体が報告しました。

2007年度の行政訪問の取り組み報告では、日本石鹸工業会からの圧力により、水環境を守る施策の存続の危機に晒され揺らいでいる全国の自治体の状況が垣間見えました。

「首長メッセージ」の取り組みは、全国227自治体からメッセージを取得することができました。

また、合成洗剤は、「化管法」では「一部合成界面活性剤は有害」と認定されていることや、PRTR制度でも排出量ワースト10であることなどを学びました。

会場では、行政への働きかけの工夫やせっけん運動を広げるための意見交換が活発に行われました。

協石連の2008年度の方針として「行政訪問活動を引き続き行うこと・日本石鹸洗剤工業会への抗議・化管法改正に向けての意見の提出・市販品への水生環境有害マーク表示の導入要請・他団体との協力」を確認し、閉会となりました。

第5 分科会

アジアとの共生 暮らしの中のアジア

谷洋一さん（リサイクルせっけん協会事務局長）を講師に迎え、「アジアにおける環境破壊の現状」をテーマに講演がありました。

「ベトナムの枯葉剤の被害は、今も現地の人々の健康や環境を破壊している。戦争こそ最大の環境破壊ということだ。また、アジアでは、多国籍企業による森林破壊、温暖化による水不足や干ばつによって、現地の人々の生活基盤が崩壊し、難民が増加している。さらに産業開発や工業化による事故や人々の健康被害も深刻だ。このような現状を理解して、共生の道を模索していく必要がある」と訴えました。

岡崎澄子さん（生活協同組合エスコープ大阪）からは、せっけん工場の設立からアジア各地へ広がっていく環境保護運動のようすが報告されました。

第4 分科会

行政との取り組み 「生命の水」は住民と行政が連携した街づくりから

グリーンコープの組合員は、生活者の視点で、水を取り巻く地域のさまざまな問題に取り組んできました。しかし、住民の力だけでは限界がある問題も多くあります。第4分科会では、住民と行政が連携して取り組んだ例の報告が3団体からありました。

山野みよ子さん、松井久美子さんからは、福岡市の小学校の給食室や、中学校の給食センターで使われる洗剤を、合成洗剤からせっけんやアルカリ洗剤に切り替える運動をしてきた経験が報告されました。

辻本美恵子さん（元筑紫野市議）からは、山神ダム上流にある産業廃棄物処分場から流出している重金属や化学物質の問題に対して、「産廃業者の許可取り消しと現状の回復」に向けた運動の報告がありました。

その後、コーディネーターに江野幸子さん（元福岡市議）を迎え、山野さん、辻本さんと、伊藤利昭さん（宗像市元環境保全課）によるパネルディスカッションがありました。江野さんからは福岡市の大型ごみ焼却施設が抱える問題、伊藤さんからは宗像市のせっけん作りなど水を守る行政の側からの取り組みの話がありました。山野さん、辻本さんはそれぞれの運動の今後の課題などについて話しました。

問題の解決のためには、法律を知った上で、行政を巻き込み、住民と行政が連携を図るようにすることが大切というまとめがありました。



協石連では行政訪問活動を方針に掲げ、行政との関係作りを力を入れています。「まずは自分たちの暮らす地域から」を実践するためにも自治体への働きかけは継続して取り組む必要があります。また、組織内のせっけんの利用率を上げるための取り組みも継続しています。

グリーンコープは「自分たちの水環境を守ること、地球環境を守る」という大きな視点でせっけん派生協としての立場を貫いていきます。

グリーンコープ生協ふくおか 生活再生相談室に 「福岡県多重債務者生活再生相談窓口」開所



窓口の看板設置。右が福岡県の富安新社会推進部長

グリーンコープ生協ふくおかが取り組んできた生活再生事業が、福岡県との協働ですすめられていくことになりました。4月24日、「福岡県多重債務者生活再生相談窓口」がグリーンコープ生協ふくおかの生活再生相談室に開所しました。行政と民間との連携は、全国的にも特筆すべきことです。

社会的に大きく評価されているグリーンコープ生協ふくおかの生活再生事業の取り組みと、開所式のようなすを報告します。

予防から自立支援まで 多重債務問題をトータルに考える

多重債務者を 取り巻く現状

厳しい経済状況の下、格差社会はますます進行し、多重債務者やホームレス者が急増しています。

社会的にはお金を借りる方が悪いという考えが根強く、多重債務の問題は個人の問題(他人事)として片付けられてしまいがちです。しかし借金の問題という点で誰にも相談できずに困窮を極め、自殺に追い込まれたり、社会生活から逃避してホームレスに陥る人も少なくありません。これは特殊なケースではありません。普通生活している人が、倒産やリストラ、病気が、事故など、予期せぬ出来

事によって、いつでもそのような状況になる可能性があります。

福岡県消費生活センターによると、福岡県は多重債務者は5年ほど前から毎年増加しており、5社以上から借り入れている人は5万人を越えるという想定されます。この状況を受け、近年ようやく社会問題として捉えようという動きが出てきました。

相互扶助の精神で 生活再生を支えあう

グリーンコープがこの問題に目を向けたのは、組合員の中に債務を抱え、購入代金の支払いが滞る人が出はじめたのがきっかけでした。それ以前からホームレス者の自立支援に取り組んでいることもあり、その根本解決のためにも、多重債務者の支援が必要と考えました。



開所式の様子。右から2番目が福岡相談室長。当日は多くの報道陣が詰め掛けた。多重債務問題に対する社会的関心の高さをうかがわせる

福岡室長の案内で相談室を視察する富安部長



これまでもグリーンコープが福祉の分野で確立してきた助けあいの仕組みを、生活の再生の場でもつくり出していくことになりました。その第一弾として2006年8月、グリーンコープ生協ふくおかの「生活再生事業」がスタートしました。

当初、組合員からは、生協が貸金業をすることに對する懸念や本事業への影響を心配する声がありました。しかし、助けあいの理念を基本に相談から解決(借金の整理)、生活再生まで一

グリーンコープの 生活再生事業の柱

グリーンコープの生活再生事業は、相談を受け支援して終わりではありません。

多重債務に陥らないための予防から、本当の意味で相談者の生活を再生させること、再び陥ることにまで力を入れています。

行政との連携で より充実した支援を

多重債務問題の解決に向けては、国や自治体も動きはじめています。福岡県も

「金銭教育事業」・「消費生活支援事業」・「生活再生相談事業」・「生活再生貸付事業」の4つの事業を柱に、多重債務問題をトータルに考えています。

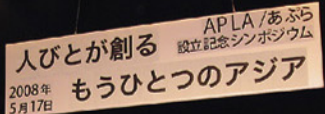
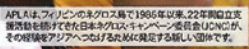
金銭教育事業では、家計相談、家計簿サークルの運営等を行い、また親子向けの学習会やワークショップの開催などとおし家計管理と金銭感覚を養う取り組みをしています。

「新生活推進部」に再編された「生活安全課」が多重債務者の救済にあたることになっています。これに伴い、予防から相談、債務整理後の生活再生まで総合的に事業を行ってきた実績のあるグリーンコープ生協ふくおかの「生活再生相談事業」と「生活再生貸付事業」を協働で取り組むことになりました。生活再生相談室に「福岡県多重債務者生活再生相談窓口」を開設、今後は一般の県民からも広く相談を受けていくこととなります。

開所当日、福岡県新社会推進部の富安節子部長から「福岡県では県民生活の安心・安全という面から、多重債務問題に非常に力を入れていきます。この問題は根が深く、生命に直結することもあります。早く手立てをし一人でも多く救えるよう、共に手を携え努力していきましょう」と挨拶がありました。

全国に例を見ないグリーンコープ生協ふくおかの生活再生事業の取り組みは、NHKの福祉番組「福祉ネットワーク」にも取り上げられ、全国に紹介されました。

多重債務をめぐる問題は単なる個人の問題ではなく、社会全体で、私たち一人ひとりの問題として捉え、考えていくことが必要です。生活再生事業はふくおかを皮切りに、くまもと、おおいだ、やまぐちでも順次開始されています。グリーンコープはこれから問題の解決に向け取り組んでいきます。



村井 吉 敬さん 早稲田大学客員教授・APLA共同代表・著書に「エビと日本人」

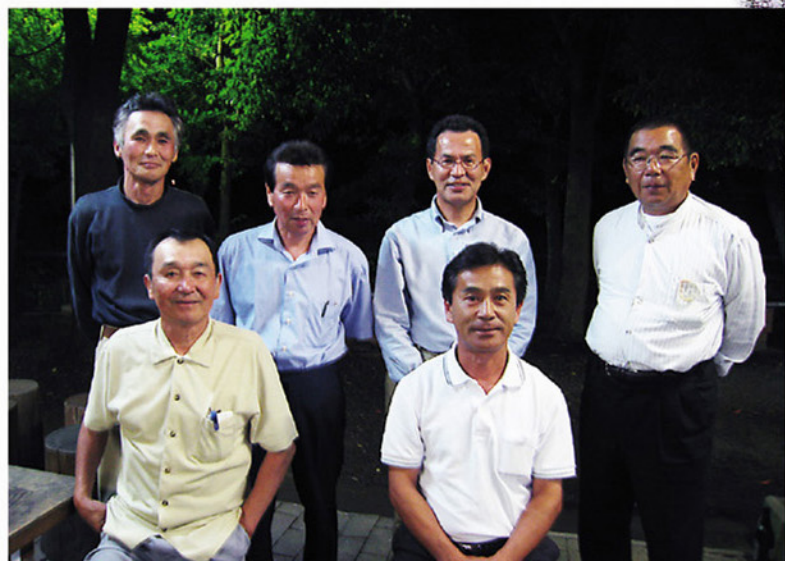
J CNCができた時、日本はバブルの絶頂期でGNPは世界1位と騒がれていた。20年経って今や15位。農村漁村は瀕死状態。経済効率だけを追求したため貿易が拡大し、世界中から物を買いたったことが原因だ。このような状況をチャンスだと捉えたい。土地や海を奪い返すという同じ目線で、アジアの人々と水平的に関係しあうという可能性が出てきた。

ネグロス・東ティモール・インドネシアを結んで「APLAボート」を浮かべてはどうか。インドネシアの伝統的木造船船を使って、インドネシアからエビをネグロスに運んで砂糖と物々交換する。そういう楽しい未来を描けるAPLAになってほしい。

共に歩んだ20年



農事組合法人 綾豚会



綾豚会会員及び準会員のみなさん・前列左が押田さん



グリーンコープはこれまで、関係する多くのメーカーや生産者との信頼関係をベースに食べものの安全性を確立させてきました。設立から20年、あるいは設立以前から、共に歩んできたメーカー・生産者をおして見えるグリーンコープを紹介します。

第3回はグリーンコープ自慢の産直豚肉の生産者である「農事組合法人綾豚会」(以下綾豚会)。有機農業の町・宮崎県諸県郡綾町で養豚を確立させ、安心・安全そしておいしさに定評のある豚肉を生産し続けてきた綾豚会代表理事・押田明さんに話を聞きました。

豚のいのちと向きあい 人が織り成す養豚へ

【警告】 世の書として30年前、社会に登場した「複合汚染」(有吉佐和子著)。さまざまな化学物質による自然の生態系の破壊や環境汚染が具体的に問題提起されており、その影響を受けた人たちは数知れない。その衝撃は、宮崎県綾町の片隅で養豚を営んでいた押田さんをはじめとする7人の若者らにも及んだ。とにかく「ほんとうの養豚とは」「自分たちが求める養豚のあり方とは」など、食うように勉強会を開いた。これまでの淡々と「豚を肥育する」ではなく、「豚のいのちを



綾豚会には若い後継者が育っている

育む」養豚が変わっていった。これが後に綾豚会へと結束していくことになる。会合を重ね、最終行き着いたのは豚に与える餌の安全性だった。豚が毎日食べる飼料にこだわるのが豚のいのちにこだわることで、それは究極安全な豚を生産することになるからだ。そのためには自前の飼料工場を持つしかなかった。当時の養豚業の常識を逸脱して設えたものの、そこから産み出される豚肉は当然想像を遙かに超えた高価なものになった。

**安全性にこだわった
若き養豚業者らの
夢が叶った**

無謀な挑戦をやつてのけた若い養豚業者の闘いはさらに続く。自らが生産した豚肉の販路を確立させなければならなかったからだ。量販店やデパートに売り込

みに行つたが、どんなに安全な豚肉であることをアピールしてもあの時代には響かなかった。夢を抱いて、信念を持って踏み出してはみたものの、受け入れ先がないという閉塞感。それを打ち砕いてくれる相手と出会った。それが旧共生社(グリーンコープの前身生協の一つ)。1981年のことだった。

旧共生社は、有吉佐和子の「複合汚染」が提起するさまざまな問題にも真摯に向きあっている地域生協だった。飼料にこだわった豚肉と共に「あなたたちの夢を買った!」と言ってくれた当時の出会いを、押田さんは時空を超えて今に再現するかにように語る。

あの当時の取引価格は100gあたり約900円。何と高価な豚肉だったことか。それを食べ支えてきた組合員の中に、安全性への

こだわりの確かに芽生えていたのだ。

それはグリーンコープへと引き継がれ、取引量も増え、同時に適正な価格に安定していった。

豚と真剣に向きあう

養豚業をはじめめるにあたって、押田さんは埼玉県や宮城県、そしてアメリカなどで研修を積んだ。準備を経て、本格的な養豚をはじめたが、その意気込みは徹底して豚と向きあうことだった。

押田さんは自分を「豚バカ」と言う。豚の気持ちがかかるのだとも。「豚はきちんと向きあえば人間の思いが通じるし、ちゃんと応えてくれる。意思疎通ができるんです」と言い切る。

何百頭もいる豚はそれぞれ個性があり、その個性を尊重して豚に向きあうのが「豚バカ」であり真の養豚業者なのかもしれない。豚のいのちをいただいて自分

母豚のおっぱいを飲む
生まれて3日目の赤ちゃん豚



顔の見える
産直関係を育てる

昨今の世界的な飼料価格の高騰で日本の養豚業は大打撃を受けている。廃業せざるを得ない業者が出てくるのは必至だと言われている。もちろん綾豚会も例外ではなく、厳しい状況にある。グリーンコープがこれからは安心・安全な豚肉を供給していくためには、綾豚会は欠かせない存在。グリーンコープは綾豚会をはじめとする豚肉生産者と共に、このような困難な状況を乗り越える覚悟だ。これまでも幾度となく苦境を越えてきた。1992年の養豚団地の豚舎2棟の火災事故や2000年に宮崎を襲った口蹄疫による出荷停止などの事態に対しても、あらゆる知恵を出しあい解決することができた。それによってさらに深い産直関係を築いてきた。

「豚と人間が織り成す養豚業」をめざすことで綾豚会は組織として生きながらえることができ、豚がいたから今の綾豚会があるのだと押田さんは言い切る。

グリーンコープ設立以前から継続している綾ツアールや、各生協で行われている豚肉学習会や試食会など、組合員と生産者との交流は20年以上続いている。子豚と触れあう機会もあり、子どもたちは子豚のかわいさと豚肉のおいしさを同時に体感する。まさに「生命の食育」だ。

家計とくらしのワーカーズ円縁が誕生しました

5月8日、「家計とくらしのワーカーズ円縁」の設立総会が行われました。グリーンコープ共同体の各生協の理事長やワーカーズ関係者など約70人が参加し、ワーカーズの新たなスタートを見守りました。



2006年、グリーンコープは、大きな社会問題となっている多重債務問題を解決するために、グリーンコープ生協ふくおかから「生活再生事業」をスタートさせました。

グリーンコープの生活再生事業には、次の4つの柱があります。

- ・金銭教育事業
- ・消費生活支援事業
- ・生活再生相談事業
- ・生活再生貸付事業

このうち「金銭教育事業」「消費生活支援事業」は、深刻な問題になるのを未然に防ぐために、予防学習や家計簿診断、悪質商法の啓発活動などを行います。

その2つの活動を推進するために、2007年1月「家計とくらしの応援活動」に関する答申が理事会で確認されました。具体的に取り組むとして、同年5月から半年間「家計とくらしの応援活動」組合員講師養成講座が開催されました。19人の組合員・職員が、60時間にも及

ぶプログラムを受講し、今年1月、全員が修了証を手に入れました。同時に「家計とくらしのワーカーズ 円縁」の立ち上げとなりました。

設立総会では、グリーンコープ共同体・吉田代表理事から「家計とくらしのワーカーズ」は、組合員の活動と密接に関係します。もう右肩上がりの時代ではありません。これからの時代の生き方・暮らし方を子どもにしっかりと伝えるためにも必要な活動です」と激励のあいさつがありました。

また、社会福祉法人グリーンコープの行岡理事長から、「円縁は言語の世界、つまり人と人との関係を司る世界で活動するワーカーズです。対象とするのは金融の世界です。人と人の関係をお金が司る世界です。円縁の誕生は、その中で人と人の関係を紡ぎあっていく、そうした未来を切り開くことを意味します」というメッセージが書面で届けられました。

代表の古見やよいさんは、「講師養成講座からワーカーズ設立まで、この1年懸命に走り抜いてきました。ようやくスタートを切ることになります。みなさんの期待に応えられるよう日々研鑽を重ねて活動していきます」と力強く挨拶しました。

オールグリーンコープのワーカーズとして設立した「家計とくらしのワーカーズ円縁」は、今後グリーンコープ共同体と連携して家計とくらしの応援活動（学習会、家計簿クラブのサポート、共済学習会等）を地域で展開していくこととなります。

※「円縁」の名前には「人と人の「縁」を結び、くらしの中の「円」を大切に育み、丸く「円」を描きながら地域に根ざした活動」という思いが込められている。

グリーンコープ商品の「遺伝子組み換え表示」が一部変わります

何よりも「いのち」を大切にするグリーンコープの立場として、遺伝子組み換え（GM）技術はそれに程遠いものであるとし、反対の立場を貫いています。従って、遺伝子組み換え作物や食品は極力使わないような商品政策をとってきました。

併せて、安心・安全な商品を提供するグリーンコープの責任として、組合員へきちんとした情報を届けるために、カタログGREENに「遺伝子組み換え表示」をしています。その表示の一部が景品表示法に抵触する可能性があるという指摘が公正取引委員会から届けられました。その内容は、「明らかに遺伝子組み換えでない天然魚介類等への「遺伝子組み換え原料不使用」という表示は、市場のものよりグリーンコープの方がよいという誤認誘導に相当する」というものです。それを受けて、この度、遺伝子組み換え表示の一部を改訂することにしました。

グリーンコープは遺伝子組み換えのものが存在しない天然魚とそれを原料とした加工品にも「遺伝子組み換え原料不使用」という表示をしてきました。例えば、「GMさんま」は天然には存在しません。しかし、醤油で調味した「味付さんま」の場合は、醤油にGM大豆が使用されている可能性があります。そのため、「天然のさんま」とそのさんまを使った「味付さんま」という二つの商品を同じ紙面で案内する際、両方に「遺伝子組み換え原料不使用」の表示をしてきました。遺伝子組み換え情報を知りたいという組合員が正しく判別できるようにすべきであると考えたからです。このような表示ができていたのは、原料はもちろん、その商品のすべてにおいて2次原料、3次原料まで徹底した管理を行っているからだと言えます。グリーンコープはこれからもGM反対の姿勢を貫いていきます。

改訂した新しい「遺伝子組み換え表示」

遺伝子組換原料国内流通無し

※カタログ欄外表示

天然魚、昆布、茶等の国内に遺伝子組み換え作物として流通していない商品のうち原料が単体及び塩のみ使用している商品に表示しています。

第一原則 自発的で開かれた組合員組織

自発的な組織で、性別や社会的、人種、政治、宗教的差別は行わない。組合員としての責任を受け入れる意志のある人であれば誰でも加入できる

第二原則 組合員による民主的運営

組合員により運営される民主的な組織。組合員は一人一票の議決権をもち、政策や意志決定に参加する

第三原則 組合員の経済的参加

組合員は公平に出資し、民主的に管理する

第四原則 自治と自立

組合員が運営する自治的な自助組織。自治を損なうような外部からの影響を受けてはならない

第五原則 教育、訓練および広報

協同組合は組合員や職員の教育・訓練を行い、組合員には十分な情報を届ける

第六原則 協同組合間協同

地域、国、世界などのレベルで連帯・協同し、組合員のために、協同組合運動を強化、発展させる

第七原則 コミュニティへの関与

地域の持続可能な発展のために活動する。

（お詫びと訂正） 本紙6月号7面「日本の生協運動のはじまりと発展」の中で誤りがありましたので、訂正してお詫びします。（誤）加賀豊彦→（正）賀川豊彦

グリーンコープがめざす

生活協同組合



生活協同組合7つの原則

「ロッチデール公正開拓者組合」が誕生してから167年、協同組合は世界中に大きく広がっています。発展の大きな要因は、「ロッチデール公正開拓者組合」が確立した協同組合原則にあるといわれています。その原則の精神が現在に引き継がれ、生活協同組合の「7つの原則」として掲げられています。グリーンコープはこれらの原則を元に、独自の理念をグリーンコープ運動として実践し、組合員の篤い信頼と社会的な評価を受けることができていると

2008年5月の組合員数 389929人 (5/20現在)

リユース リサイクル データ 2008年4月分

牛乳びん	リユースびん	トレー	モールドバック
回収本数 1,115,667本 回収率 98.4%	今月のデータ掲載はありません	回収重量 13,899kg 回収率 63.7%	回収重量 35,930kg 回収率 105.6%

放射能汚染測定結果報告(177)

2008年4月

放射能汚染食品測定室検査。NDは、検出限界値（1ベクレル/kg）以下です。
※は、グリーンコープ連合取り扱い商品です。

	検体名	産地	セシウム134	セシウム137	合計ベクレル/kg
※	乾燥しいたけ	九州	ND	ND	ND
※	エコシュリンプ	インドネシア	ND	ND	ND
※	子持ちししゃも	アイスランド	ND	ND	ND
※	さばフィレ	ノルウェー	ND	ND	ND
※	ホワイトソフトマーガリン		ND	ND	ND

新テーマで募集中

●グリーンコープ誕生20年によせて

●私の好きなグリーンコープ商品

●400字程度 ●A4切 毎月末
●住所・氏名・年齢・TEL・所属生協名を明記して郵送またはFAX、Eメールでお送りください。
掲載分には図書カード（500円分）進呈。
●住所・氏名などの組合員の個人情報、本紙に掲載の場合のみ使用します。

〒812-8561

福岡市博多区博多駅中央街8-36 博多ビル7F
グリーンコープコミュニケーションワーカーズ連(REN)
「共生の時代」編集部 宛
FAX 092-481-7876
Eメールアドレス rikoho@greencoop.or.jp

グリーンコープ

組合員
ワーカーズ
職
リレーメッセージ

未来へつなぐ20年 私の思い

グリーンコープの20年という歴史の中を、多くの人が、多くのコトが駆け抜けていきました。その一つひとつがグリーンコープの中に刻まれ、グリーンコープの成熟へとつながってきています。この一年間、さまざまな人をおしてグリーンコープの歴史をひもといていきます。グリーンコープ誕生20周年を記念して、組合員・ワーカーズ・職員からのリレーメッセージを掲載します。



今回のリレーメッセージは、生協とかかわってきた私の人生を振り返るよい機会になりました。その出会いから今日まで、生協をとおして代理人運動や、地域の活動をすすめてきた中で、私の活動の柱となった七つの言葉を思い起こすことができました。

その一、自分で決める

生協への加入についてぐずぐず言っている時、「入るのも入らないのも自分で決めていただければいいんですよ」という職員の一言。それが私の生協との出会い。その二、固有名詞で生きなさい。生協に加入し活動している時、「女性の生き方」という講演会を計画した。講師は上野千鶴子さんだったと思う。「〇〇さんの奥さん」「〇〇ちゃんのお母さん」ではなく、固有名詞の自分として生きてほしいという一言が強く心に残った。

その三、誰かがやらなきゃ

元ふくおか南部生協（グリーンコープの前身生協の一つ）の理事長の任を受ける話の中で、重荷に感じていた私に対して職員の一言。それは、私ではないでしようとの隅に思いながらも、自分がやらなきゃかなと決意することができた。

その四、どうせやるなら気持ち良く活動をすすめていく中で、考え方の違いから不満を言いながらの

生協と出会い、心に刻んだ言葉

ふくおかネットワークの代理人一号 元那珂川町議 古野 悦子

毎日を送っている時、がつんと夫の一言。それ以来、ちよつと前向きになった。

その五、不安を課題に

グリーンコープ全県連帯を準備する単協理事長が集まった議論の中で、「連帯は無条件である」という意味がなかなか理解できず、それぞれの単協の歴史を認めることができず、一つになることの不安ばかりが述べられる中で、たぶん、私が発した一言。不安と言つてしまえば、いつまでも解決しないが、それを課題と置きかえればどのようにすればよいかを考えるようになるはず。連帯をすすめる見出しになり、一歩すすんだ。

その六、生活って政治

生協運動から代理人運動に活動の軸を移す中で、政治は暮らしそのものであることを気付かせてくれた言葉。

これを合言葉に町議選挙をやり、地域に代理人・ネットワーク運動を広げることをすすめてきた。

その七、空気と制度を変えよう！

代理人運動に対するスローガンとして、常に心がけてきた言葉。この言葉は、作家・小田実氏の講演会で彼が発した一言。行政の政策においても、生協の中でも地域でもどこにでもあてはめて、具体策を提起していくことや、周りの人々と共感しながら行動していく大切さを示してくれた。

グリーンコープとの出会いに感謝しつつ、私はこれからも、地域で何かやり続けていくつもりです。

グリーンコープとかかわりを持つようになったのは、二男のお友だちのお母さんとの出会いでした。彼女はいつも素敵な笑顔で、生き生きと、食べものももちろん、環境問題のことも熱心に語ってくれました。また、いろんな取り組みの場に誘ってもらいました。もともとこたわりなく、なすがままに生活していた私にとつて、彼女との出会いは、人生を大きく左右するものでした。

その出会いをきっかけに地区委員を経験し、その後、1996年におおいたで初めての家事支援



出合いを大切に

生活応援ワーカーズかがやき 代表 江戸 良子

ワーカーズ「であい」を彼女らと一緒に立ち上げました。

あれから12年、これまでにどれくらいの方々と出合ってきたのでしょ。ワーカーズのみならず、ご利用者さん、生協職員の方々、組合員のみならず、すべてが私にとつては大切な出会いであると共に、これまで想定できなかった経験をさせてもらい、それが貴重な財産となりました。

現在は社会福祉法人グリーンコープに合流して3年目。事業所名も「ふくしサービスセンター」であい・ふれあい」として、

大分市内全域を対象に日々活動しています。おかげさまで、ご利用者の方々はもちろん、行政や他の福祉関係の方々からも信頼を得、活動も広がりを見せています。それはグリーンコープとの出会いがあったからこそ。常に誠実に物事に向かうグリーンコープの姿勢に、私たちワーカーも襟を正し、出会いを大切に、人を、自然を、大切にと思

う毎日です。常に先を見据え、ますます深化するグリーンコープと共に、私たちワーカーズも地域福祉の一端を担ってすすんでいきます。



「共生」の理念が人間として生きていく価値観になった

グリーンコープ生協くまもと 専務理事 佐渡 公成

2001年、くまもと生協

人間として生きていく上で大切な価値観となりました。

福岡のとある大学を卒業後、職業の一つとして生協に入職し、グリーンコープで働いてきたこれまでの25年間は、私の価値観そのものを変えていく歴史でもありました。それは、「共生」でした。生協に入り、配達にはじまる私の最初の出会いは、「組合員」でした。行事も取り組みも手弁当で参加し、協同する組合員の姿でした。1988年のグリーンコープ誕生時には、組織部（当時の共生社熊本地方運営協議会）に在籍し、同年ネグロスと熊本障害者労働センターに出会いました。

労働組合の代表として参加したネグロス視察で見たものは、さとうきびの国際価格の暴落によって飢餓と貧困で苦しむネグロスの状況と、死と直面しながらも生きようとするグリーンコープで働

う、自立しようとする民衆の姿まじくも美しい姿でした。そして、そこに連帯しようとするグリーンコープがありました。また、当時、牛乳パックのリサイクル運動の一環として、組合員から回収した牛乳パックの整理作業を熊本市にある授産施設「熊本障害者労働センター」に委託していました。そこで出会ったのは、障がいを抱えつつも社会参加のために一生懸命働く人たちの姿でした。その一人が作業の合間に私に言った言葉：「佐渡さん、俺たちだって人間だ、大人だ、社会人なんだ」。私はその瞬間、この方たちと連帯しようとするグリーンコープで働